

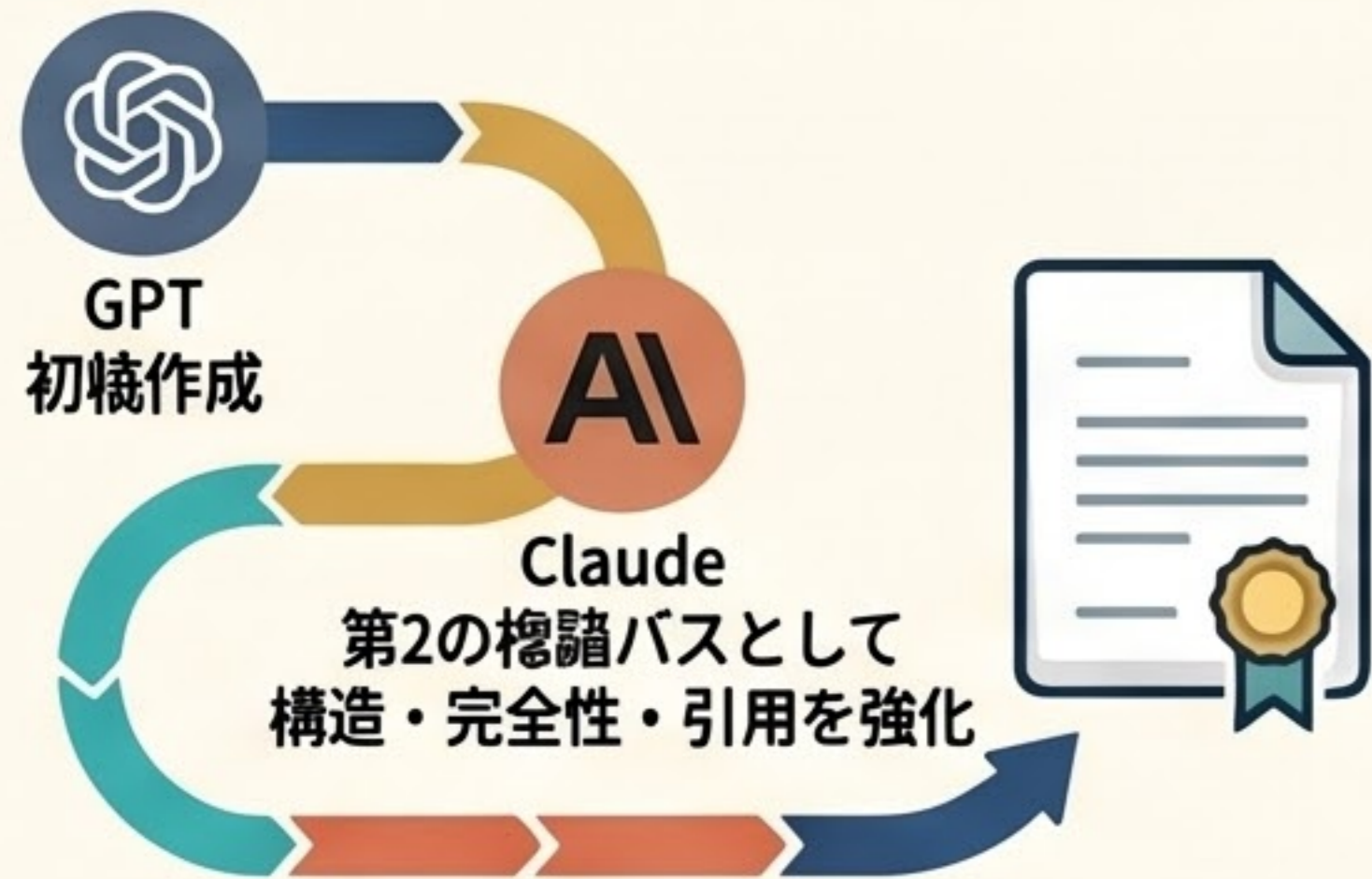
Microsoft 365 Copilot Researcher：知財実務を変える「Critique」と「Council」の活用ガイド

AIの「直列型査読」と「並列型比較」による知財ワークフローの新基準

2つの新機能：動作原理と特徴

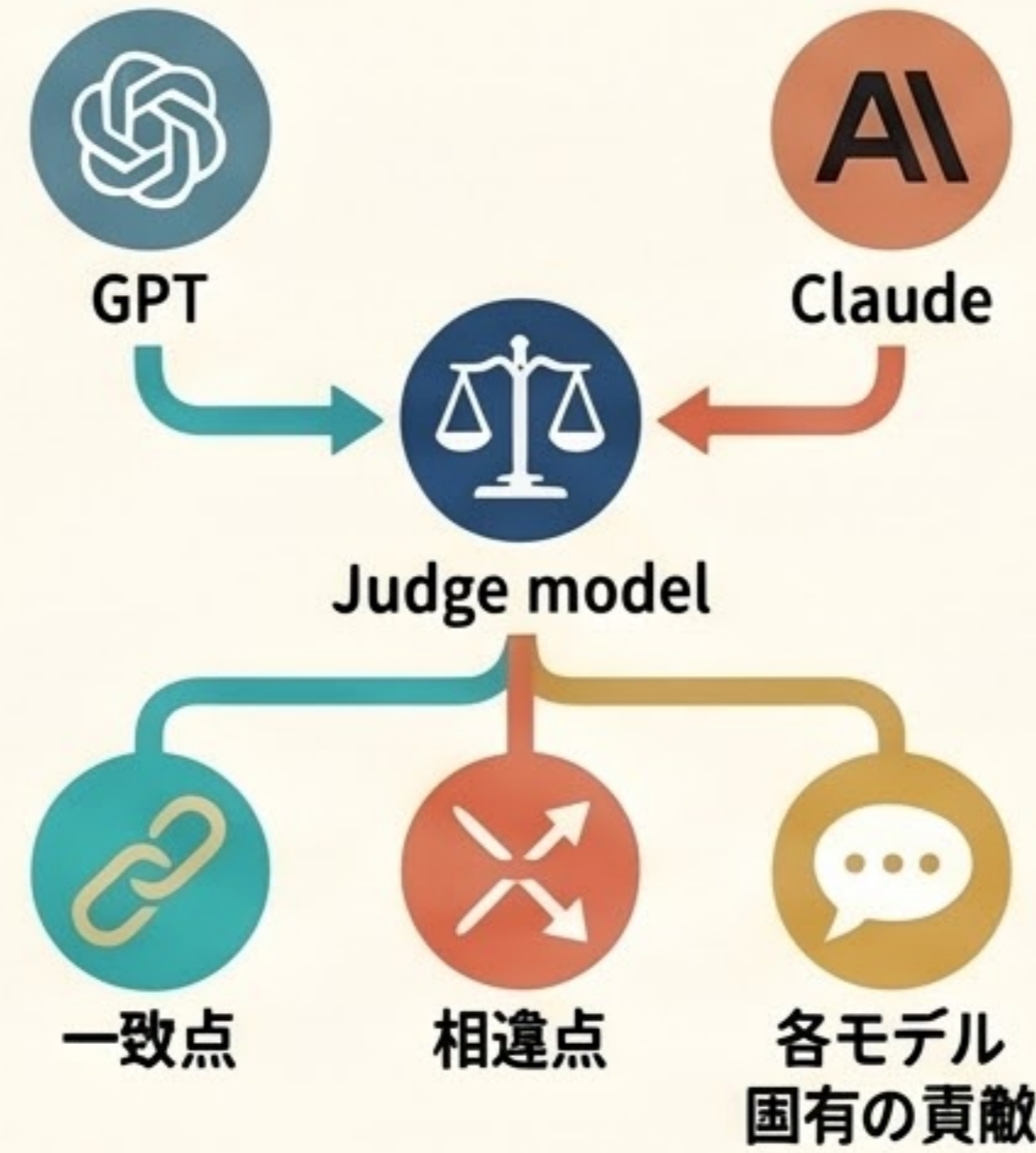
Critique（直列型・査読モード）

一つの完成されたレポートを求める場合に最適です。



Council（並列型・比較モード）

複数の解釈やリスクを検討する場面向いています。



モデル特性の相互補完

長文統合に強いGPT系
指示選読・安全性に定評のあるClaude系を組み合わせることで、出力の信頼性を高めています。

知財実務における使い分けマップ

Critiqueが輝くタスク

「一つの提出用ドラフト」を磨き上げる作業。

- 発明者インタビューの要約
- 技術背景の整理
- 契約書の修正案作成

Councilが輝くタスク

「複数の見方」が必要な場面。

- 特許無効の論点比較
- ライセンス交渉の立場別シナリオ
- 著作権の両論整理



説明責任の所在

Wordの変更履歴 (Track Changes) やコメント機能、Purviewの監査ログを活用し、「誰が、いつ、どのソースを誰に修正したか」を遡跡可能にします。

導入・統制のチェックリストと推奨フロー

導入・統制のチェックリスト



DRACO評価による有意な改善
Critiqueは観存ソースの活用精度を向上させますが、検索自株の信頼性 (先行技術の取りこぼしゼロ) を保証するものではない点に注意が必要です。

機密区分別のアクセス制御
発明簿や特許方針などの高機密案件では外部Web検索を制限し、信頼境界 (Trust Boundary) 内での運用を徹底します。

人間による最終承認
AIは「叩き台」の作成者であり、特許出願や契約機軸の最終判断は必ず人間 (弁護士・弁護士知財担当者) が行ラフローを確立します。

知財ワークフローの推奨モデル

